松任駅南地区の賑わい創出（滞留性・回遊性の向上）に向けた調査と施策の提案

指導教員　金沢星稜大学　経済学部　教授　新　広昭
　参加学生　黒田智之・嶋田彩未・寺山響亮・中優斗・諸江理生・山岸未侑・石木佑菜・内潟奈々
指導教員　金沢星稜大学　人文学部　教授　齋藤　千恵
　参加学生　池田愛悠・虎谷果奈・福田紗季・山崎菜々子
指導教員　金沢星稜大学　経済学部　講師　梅田　充
　参加学生　池端啓冬・武田茉友香・出水千尋・吉田琴絵
指導教員　金沢星稜大学　経済学部　助教　牧野耀
　参加学生　上田実侑・岡部あゆ・清水来羅・高橋壘・中橋沙奈

【総括】

1. 活動の成果要約

松任駅周辺の文化施設利用者の実態調査から、滞留性・回遊性向上に向けた課題を発掘することができた。また、白山市松任地区全体の利便性調査から、松任駅南側地区を起点とした松任地区の利便性の向上に向けた課題を発掘することができた。

さらに、これらの課題を踏まえ、滞留性・回遊性の向上に向けた具体的なコンテンツとして、SNS 向け及び動画サイト向けのバーチャルツアー・オンラインツアーの動画を複数作成することができた。

2. 活動の目的

松任駅南地区のにぎわい創出に向け、日頃の利用者層やそのニーズの実態把握と松任駅南地区周辺が日常的に賑わうためのアイデアについて、下記の調査の結果をもとにマーケティング、観光学、エリアマネジメントなどの手法により、学生の視点から調査・提案を行うことを目的とした。

3. 活動の内容

課題発掘のための調査活動に２ゼミナール（新ゼミ、梅田ゼミ）、調査結果も踏まえ賑わい創出に向けたコンテンツ作成の活動に２ゼミナール（齋藤ゼミ、牧野ゼミ）の４ゼミナールで活動した。

各ゼミナールの活動内容は次ページ以降で紹介する。

4. 活動の成果

各ゼミナールの活動の成果は次ページ以降で紹介する。

5. 次年度の計画

本年度の成果を踏まえ、引き続き白山市と連携し、「地域共創支援枠」として申請を検討している。

6. 活動に対する地域からの評価

白山市からは、各ゼミナールの活動に対して適切な評価（コメント）をいただいた。評価の具体的な内容は各ゼミナールの活動紹介の中で記述するが、総体的には、「課題の発掘、課題解決に向けた具体的な取り組みの方向性を見出すことができた。」という評価であり、来年度の取り組みの発展について期待していただけたものと考えている。

【ゼミナールごとの活動紹介】

Ⅰ　新ゼミナール

1. 活動の目的

松任駅南地区（駅南側周辺地域から在来商店街を含む地域）の賑わい創出（滞留性・回遊性の向上）に向け、松任駅周辺の文化施設等利用者の動態を把握することを目的とする。

2. 活動の内容

松任駅周辺の文化施設等（松任図書館、千代女の里俳句館、おやこの広場あさがお など）の利用者（49 名：男 22%、女 78%）へのアンケート調査を行った。

3. 活動の成果

【アンケート調査結果（一部）】

・交通手段

図書館の利用者は徒歩・自転車が一定数（24.2%）いるが、全体として車利用が主体（84%）

・施設の知名度

文化的施設＞歴史的建造物（施設別では図書館が最も高く(93.8%)、北国街道の石碑が最も低い(20.4%)

・松任駅周辺の買い物・飲食店の利用頻度

週 2 回以上(4.4%)、週 1 回程度(11.1%)、月 1 回程度(22.2%)、年 1 回程度(20.0%)、ほとんどない(42.2%)

・コロナ禍による施設利用頻度の変化

増えた(2%)、変わらない(44.7%)、減った(53.2%)、

4. 次年度の計画

アンケート調査結果からは、駅周辺に魅力的な施設が多く立地しているにもかかわらず、地元の人間がその魅力を十分に認識していない現状が浮かび上がってきた。インバウンドを中心に域外の観光客に施設の魅力をアピール・来訪してもらうことにより、地元住民に再認識してもらうことが重要と考える。この調査結果を踏まえ次年度は、松任の魅力をめぐる散策ルートを設定、インスタグラムを利用して情報発信し、駅周辺の飲食店やイベントのアピールにつなげる活動に取り組むこととしたい。

5. 活動に対する地域からの評価（白山市役所からのコメント）

イベントへの興味・関心・参加については、「行ったことがある」が 2020 年に全部伸びている。また、回遊性や賑わいに必要な「買い物・飲食」が少ないのは、車の利用者が多いことと関連し、人の動きが郊外型となっている結果ととれる。松任駅南口側が文化ゾーンとして整備されてきたことから飲食店や商業施設が少なくなり、周辺施設利用者のニーズに合わなくなっていることや駅利用者と地域利用者が結びついていないことなどの課題も出てきた。今後さらに白山市の玄関口としての駅機能と文化施設や商店街周辺の回遊性等を検証していくことの重要性も見えてきた。

Ⅱ 梅田ゼミナール

1. 活動の成果要約

白山市の利便性向上について調査した。白山市は，東洋経済新報社の住みよさランキングで４位と高い評価受けている。実態とは別に，このようなランキングはレピュテーションとして様々なステークホルダーに影響を及ぼす。ランキング指標を分析した結果，「利便性」の値が非常に低いことがわかった。隣接する野々市市は，ランキング１位であり，相対的に「利便性」の値が高い。そこで，商業施設等を調べたところ，野々市市に比べて白山市は商業施設がすくなく，野々市市に商業施設が多いことが分かった。しかし，市という行政の関係から全く動線がなく，特に市民バスの連携が取れていないことが明らかになった。このような結果から本ゼミでは，労働者が集中する工業団地，野々市市の強みである商業施設を行政の区分を超えた市民バスの重要性を提案した。

2. 活動の目的

本ゼミの目的は，松任駅周辺の賑わい創出を目的をして，白山市の玄関として人々の「動きの活性」のための施策を明らかにすることである。

3. 活動の内容

白山市役所へのインタビューをもとに，東洋経済新報社の住みよさランキングの指標分析及び野々市市との比較，両市の税収，納税額，人口割合，人口動向，商業施設数，市民バスの路線を調査した。

4. 活動の成果

上述の通り住みランキングの利便性に関する指標が低いという結果から，なぜ低いのかを分析した。その結果，人口割合からも野々市市と比べ２０代～６０代の割合が約５％低いことが明らかになった。，また，行政の区分が人の動線に負の影響を与えているのではないかという課題を発見した。

5. 次年度の計画

実際に，市民バスの両者へのアンケートを行いたいと考えている。具体的には，「バスの活用度」，「バスの利用度」，「バスの満足度」が「市民の動向」にいかに影響を及ぼすのかについて，統計手法を用いて分析する。

6. 活動に対する地域からの評価（白山市役所からのコメント）

今回は工業団地に焦点を当て調査していただいた。勤務地や雇用は生活するうえで重要であることから、商業施設や交通面比較することも大切と思われる。一方で人口規模や市域（過疎地）によっても、労働人口などの比率に影響するなど、近隣自治体との比較も難しい。　工業団地の効果としては、製造品出荷額等では、白山市が県内１位であり、事業所数、従業者数も含めると、野々市市とはかなりの開きがあることからも、住みよさのランキングだけで安心できるものではなく、白山市の玄関口である松任駅が人の流れの中での位置づけが今後の課題として見えてくることから更なる調査が必要と考える。

Ⅲ　齋藤ゼミナール

1. 活動の成果要約

齋藤ゼミ 3 年生 4 名で､松任駅周辺を紹介する動画を作成するため､アンケート作成から動画撮影、編集まで行った。松任駅周辺という限定され地域の、地元の人々が勧めるスポットについて、見た人が心惹かれるような画面を作り、解説を入れようと試みた。動画としては未熟な部分が目立つが、次年度のオンライン・ツアーやバーチャル・ツアー作成のための礎は作ることができた。

2. 活動の目的

松任駅周辺の賑わい創出という目的のもと、コロナ禍における観光の可能性を探るため、オンライン・ツアーを作成した。

3. 活動の内容

地元の人が勧める場所にフォーカスしたオンライン・ツアーを作成した。

10 月松任駅出口付近で、駅利用者が勧める駅周辺のスポットについてのアンケート調査。撮影場所を設定し、撮影。

11 月　動画を編集、音楽を挿入。

12 月・1 月　音楽を再選択、英語と日本語の字幕を挿入。

4. 活動の成果

齋藤ゼミ 3 年生 4 名で、アンケート作成から動画撮影、編集まで行った。松任駅周辺という限定され地域の、地元の人々が勧めるスポットについて見た人が心惹かれるような画面を作り、それに解説を入れようと試みた。動画としては未熟な部分が目立つし、現在は、YouTube で限定公開しかされていないが、松任駅周辺の魅力をどう伝えていけばいいのかということは検討できた。

5. 次年度の計画

当初の予定では、バーチャル・ツアーを作成する予定であったが、厳密な意味でのバーチャル・ツアーでは、360 度カメラが必要であるため、今回はオンライン・ツアーとした。次年度は、松任駅周辺から離れた場所で、名所を含めたバーチャル・ツアーか、食を盛り込んだオンライン・ツアーの撮影を考えている。

6. 活動に対する地域からの評価（白山市役所からのコメント）

バーチャルツアーは、コロナ禍となってから耳にするようになり、報道番組などで少し聞いたことがある程度で、自分の地域でどう表現できるのか興味があった。読みかける旅動画との違いが分かりにくく、時間制限の影響か早送りとなる部分が見ている側が疲れるので改善の余地があると思われる。

外国人向けも配慮しているところは、インバウンドの拡大に向けて重要であり、スマホの普及を考えるともっと発展させなければいけないと感じた。自分がいる位置や観光の目的など複数の種類をつくることが必要と思われるので引き続き取り組んでもらえるとありがたい。特に食も体験できるよう工夫がほしい。

Ⅳ 牧野ゼミナール

1. 活動の成果要約

本ゼミの活動では、若者の消費行動の初期段階の傾向を利用した、松任のにぎわい創出を目指して、動画を作成し松任の魅力を認識してもらうための提案・発信を行った。松任の魅力ある場所を調査して、SNS 向けのショート動画と動画サイト向けの松任 1 日観光プランの動画を作成した。オシャレなシーンとしての魅力訴求と、学生のスポット紹介や店主のインタビュー映像による魅力発信の 2 つの方向性で動画作成・発信することができた。

2. 活動の目的

昨年度の調査結果から、松任の地域の特徴や個性を活かして、若者も愛着を持てるようにすること、松任に訪れる理由を増やせば、愛着に繋げられると考えられた。そこで松任には綺麗な場所や歴史的な施設が多くあることを活かしつつ、外出や旅行が制限されることを鑑みて、若者がよく触れるメディアを通して、松任の楽しみ方やおすすめのスポットを紹介することを目的とした。

3. 活動の内容

具体的には、8 月に松任駅南地区の現地調査、9 月/10 月に PR 戦略のディスカッション、11 月現地での動画撮影、12 月/1 月に動画作成，2 月/3 月に活動報告となった。動画作成では，SNS 向けのショート動画と動画サイト向けの松任 1 日観光プランの動画を作成した。前者では魅力的な場面やシーンを紹介し，後者ではよりおすすめスポットやおすすめの遊び方などを発信する意図である。

4. 活動の成果

活動の成果として、松任の魅力ある場所を調査して、その魅力を動画として他者に伝達可能な形でまとめられたことが挙げられる。オシャレなシーンとしての魅力訴求と、学生のスポット紹介や店主のインタビュー映像による魅力発信の 2 つの方向性でまとめることができた。今回作成した、松任魅力発信動画をいかに多くの若者に視聴してもらうかが課題である。

5. 次年度の計画

今年度は駅から徒歩または公共交通機関で訪れることができるエリアが中心であった。今後は，より市域全域に波及できる魅力発信やきっかけづくりを進めていく。

6. 活動に対する地域からの評価（白山市役所からのコメント）

ＳＮＳを使った情報発信は若者だけでなくスマホやパソコンをはじめとした機器で手軽に情報収集する現代に大切であることは理解していたが、効果的な手法や何を訴えれば多くの人たちに魅力を伝え、松任駅周辺に来ていただけるかなど、学生から見た表現で分かりやすかった。ここで気づくことは、松任駅南口周辺の回遊性を持たせる際に、市外からの利用者と市内からの利用者への発信の見せ方に工夫がいるであろうということ。インスタ映えなどを求める非日常空間と住民が過ごす日常空間でそれぞれが求めるニーズの違いにより、情報発信のツールも内容もまだまだ発展させることに気づかされた。